

キューバを見る 聞く 知る 8日間ツアー★2014年3月6日(木)～13日(水)

## はじめてのキューバ訪問

杉本茂樹 埼玉県さいたま市



今回のキューバ友好円卓会議主催の「キューバを見る 聞く 知る 8日間ツアー」は、短期間で盛り沢山の参観をしたために、かなりのハード・スケジュールであった。

私たち一行は、各地のICAPを訪問した後、総合診療所、小学校、有機農園、グアンタナモ基地、モンカダ兵営博物館、モロ要塞、ホセ・マルティ墓地、ラテンアメリカ医科大学、支倉常長像、トロピカーナ観劇、チェ・ゲバラ霊廟、装甲車襲撃記念碑などを参観してきた。その中で、印象に残ったいくつかを述べてみたい。

## 検問所をスルー・パス



ハバナからサンチャゴ・デ・クーバへ移動した私たちが、グアンタナモ基地へ向かう時のことであった。私たちが乗ったバスの前に1台の「黒バイ」(Police)が先導車となった。基地に近づいてきた頃、「皆さん、まもなく検問所です。パスポートを用意して下さい」と車内でア

ナウンスされた。そして、検問所に着くと、先導車「黒バイ」に乗る警察官が、検問所の兵士に手を振るだけで、そのまま走行し、私たちの乗るバスも車内検問を受けることなく、「黒バイ」にしたがって通過してしまった。その後の検問所もバスは停まることなく通過していった。成田空港の検問所を考えるとスルー・パスするのは気分が良い。これは「観光VIP」としての慣行なのだろうか？

この時のバスのドライバーに「黒バイの先導をどう思いますか？」と尋ねた。その答えは「邪魔だ」であった。思いもかけない回答に少々戸惑ったが、真意は「自分で好きなように運転できないから」とのことであった。

途中の道路の両脇に広大な塩田が広がっていた。風と太陽が造り出す白い天然の塩が山積みになっているところも



グアンタナモ湾。はるか彼方にグアンタナモ米海軍基地

あれば、海水を入れたばかりと思われる場所もあった。輸出品の砂糖と共に、天然の塩も豊富に生産されているように思えた。

グアンタナモ湾の米海軍基地近傍のホテルに到着した私たちは、ホテルの一室に基地の地形を象ったジオラマを前に米軍基地の概要について説明を受けた。その後、ホテルの屋上から基地を遠望したが、占領地の広大さは実感できるものの、施設類は霞んだようでははっきりと見る事ができなかった。広大なキューバの領地を1世紀以上にわたって占領し、1万人余の軍隊を駐留させ、軍法のみが適用される治外法権区域である。湾の入口側が占領されているために、現地漁民は出入りができないという。湾内で漁民が殺された事件も起きていると。沖縄の米軍占領と専横とが重なり、アメリカに対する怒りがこみ上げてきた。

## フラッシュ・ライトを持たないエンジニア

サンチャゴ・デ・クーバからハバナのホテルに深夜近くに戻った時のことである。ホテルのエレベーターが故障していて動かない。重いバゲージを抱えた私たちは、5階まで自力で運ばなければならなくなった。その時、従業員の青年が荷物用のエレベーターで運んでくれることになった。9個のバゲージを積み込んだエレベーターは2階で止まってしまい、ドアが開かなくなってしまったのだ。そこで、エレベーター会社の関係者と思われる人物が呼び出されたが、すぐには開けることができなかった。結局2階のエレベーターのドアを壊して強引に開け、何とかバゲージを取り出すことができた。だが、最後に取り出したバゲージはものの見事に押し潰されて破壊されてしまっていた。折角の青年の善意が裏目に出てしまったのだ。

私はこのバゲージの取り出し作業を手伝ったのだが、その場でキューバの実情の一面を見ることになった。それは、止まったエレベーターの中はライトもなく暗闇であったが、作業の手元にはフラッシュ・ライトがないのである。

私はすぐに手持ちの小さなフラッシュ・ライトで彼らの手元を照らすことになった。乾電池が不足していると聞いてはいたが、その現実を垣間見ることになったのだ。

ハード面のエンジニアにとって“フラッシュ・ライト”は必須のツールである。乾電池のようなものを一市民が自助努力で生み出すには限界があるであろう。これもアメリカによる経済封鎖が市民生活に及ぼしている現れだとの思いを抱いた。すべてのバゲージを取り出した後に、作業に呼び出された人物に私の持参したフラッシュ・ライトをプ

レゼントせずにはいられなかった。

## リズムカルに踊るキューバの人々



私たち一行はある小学校を訪問した。児童たちは私たちのためにさまざまな踊りを熱演してくれ

た。その子どもたちの持って生まれたリズム感、肢体のしなやかさには、先住民・スペイン・アフリカと三つの民族のDNAが受け継がれていることの証しだと感じられた。「これを見れば、もうトロピカーナを見なくてもいい」とどなたかが発していたほど、子どもとは思えない艶容な舞姫たちであった。

いま一つは、総合診療所を訪れた時のことである。一通り所内を見学してホールのような所で診療所の概要が医師から話された。その話が終わると、一人の青年が白衣を脱いで赤いTシャツに黒いサングラスをかけて私たちの前に立った。小さなレコーダーから曲が流れると、狭いフロアを縦横に駆使してリズムカルなステップで躍動感に溢れる見事な踊りを披露した。その動きが止まった時、ホールに人々の拍手が響き渡った。

「私たちには、歌い、踊り、笑い、愛する時間がある」（『父ゲバラとともに、勝利の日まで』より）と語った、チェ・ゲバラの長女アレイダ・ゲバラさんの言葉が実感を持って感じられた。開放感に満ちた人びとであればこそ、苦しい経済状況下で貧しくとも誇り高く生きていることを。

## 半世紀前の車が走る街

どの地域を訪れても、50年代、60年代のアメリカ車とロシア車が街路を走り回っている。どの車も年代を思わせないほど磨かれている。その上、黒煙を上げる乗用車も見かけない。黒煙を上げるのは古いバスとトラックだけであった。

不思議なのは、半世紀以上も前の車が、何故、錆びずに保たれているのか？ 何故、黒煙をさほど出さないのか？ など疑問が湧いてくるばかりであったが、尋ねてみると、自分たちで故障した部品を手作りしてしまうという。先のドライバー曰く「発明」していると。偶然だが、路上に止めた車のエンジンが丸ごと取り出されていた。そのエンジンを路肩において修理している現場を目にした。「必要は発明の母」の言葉を思い浮かべた。

どんなに堅牢にできた耐久消費財でも耐用年数には限度



があると思う。だが、キューバではそれを感じさせない。逆に、日本をはじめ先進国と呼ばれる国々では、「モデル・チェンジ」と称して人々は買

わされ続けている。これほど地球資源の浪費、無駄遣いはない。

人々の自力更生で、アメリカの経済封鎖を打ち破り、「人間のための社会主義」を築いてほしいとの願望を抱きながら、はじめて踏んだキューバの地を後にした。

## スケジュール表

月日	現地時刻	訪問先
3月6日 (木)	14:00	成田空港第1ターミナルAir Canada カウンター前集合
	17:00	AC002便(機種B777-330) 定刻発
	14:50	トロント空港着
	16:20	トロント空港発 AC1748便
	19:55	ハバサ(ホセ・マルティ国際空港) 着
	21:50	国営旅行社(アミストール)のエメリアさん出迎え
	22:20	迎いのバスで空港を出発 ホテル(Bela Habana) 着、バーで夕食
3月7日 (金)	2:15	ホテル出発
	2:35	ハバサ空港・国内線ターミナル着
	6:00	ハバサ空港発 7L884便(機種ATR-72)
	7:40	サンチャゴ・デ・クレーン空港着
	8:20	空港からのバス出発
	8:35	San Juan Hotel 着
	8:50	ホテル出発
	9:10	サンチャゴ・デ・クレーン州 ICAP 訪問
	10:40	Ramon Lopez Pena Policlinico (総合診療所) 訪問
	12:20	Matamoros Restaurant で昼食
14:45	小学校(Internado de Primaria) 訪問	
17:30	ホテル着、夕食	
3月8日 (土)	8:40	ホテル出発、グアタナモへ
	10:05	グアタナモ州 ICAP 訪問
	10:35	有機農園見学
	12:00	「黒バイ」(Police)の先導でCaimanera Hotelへ 同ホテルの屋上からグアタナモ墓地を遠望
	14:15	Caimanera ホテル出発
	18:30	San Juan Hotel 着
	19:45	レストラン・ZunZunで夕食
22:15	ホテル着	
3月9日 (日)	7:30	朝食(本日よりサマータイム)
	9:40	シボネー農場(カストロら革命軍集結の地) 見学
	10:55	モンカダ(Moncada) 兵営博物館見学
	12:35	モロ(Morro) 要塞見学 レストランで昼食
	16:00	サンタ・イフィヘニア(Santa Ifigenia) 墓地見学
	18:10	ホセ・マルティ(Jose Mari) 墓・衛兵の交替見学
	20:40	サンチャゴ・デ・クレーン空港着
	21:50	空港発 CU987便(機種:Antonov 158)
22:30	ハバサ空港着	
22:40	ホテル(Bela Habana) 着 旅行荷物荷物用エレベーターに挟まる。旅行鞆一つ大破	
3月10日 (月)	8:40	ホテル出発
	9:30	ラテンアメリカ医科大学訪問
	13:00	医学士の教育体系のレクチャーと校内見学
	15:05	昼食(中華料理店・多寶樓)
	15:05	革命広場散策
	16:00	ICAP 本館訪問、アロシアICAP 副総裁と会談
	18:10	支倉常長像等見学
	19:00	旧市街の運河近くのレストランで夕食
21:45	トロピカーナ観劇	
24:00	ホテル着。(エレベーターに4人閉じ込められる)	
3月11日 (火)	8:10	ホテル出発
	12:00	サンタ・クララ州 ICAP 訪問、同所で昼食
	14:10	産婦人科病院訪問・寄付金贈呈式(★次ページ参照)
	15:30	チェ・ゲバラ霊廟参観
	16:45	装甲車博物館記念碑見学
	17:25	Caneyes Hotel で正白組とお別れ
	22:00	ホテル着、ホテルのバーで夕食
3月12日 (水)	5:30	ホテル出発
	8:37	ハバサ発 AC1749(機種:Embraer 190)
	11:40	トロント空港・降雪中の滑走路に着陸
	13:40	トロント発・AC001(機種B777)・定刻より遅れて出発
	14:10	滑走路の変更後、離陸
3月13日 (木)	17:20	成田空港着
	18:00	解散